

＝ 病院の理念 ＝
 人間の尊厳と患者の権利を守り、安全・安心の医療、差別のない医療、納得の医療を患者様や地域の方々とともに目指します。

東葛の健康

№ 471 2023年 11月号
 [毎月5日発行] [毎月1部20円]
 発行 東京勤労者医療会東葛病院 院長 井上 均
 〒270-0153 千葉県流山市中102-1
 TEL 04 (7159) 1011(代)
 FAX 04 (7158) 9202
<http://www.tokatsu-hp.com/services/out/organization/>

東葛病院付属診療所 サテライト透析室

東葛の医療
透 析



写真1



阿部純一副事務長

最新鋭の透析設備を整える

新施設として開設

2023年10月2日、東葛病院付属診療所4階に外来透析専用施設として「付属診療所サテライト透析室」がオープンしました。

東葛病院腎センターのサテライトとしての位置づけで、30床の透析装置を有する維持透析施設となります。建物は東葛病院が移転する前に外来透析センターとして活用していた施設を再工事し、新施設として設備を行い元々60台配置していた広い空間を有効活用し、全自動透析装置を主体とした最新鋭設備を整え

透析療法

透析療法について簡単に解説致します(図1)。透析療法は腎臓の機能が著しく低下した方に対する治療です。腎臓の機能が失われるとおしっこを作る事が出来なくなり、身体の中に水分や毒素が蓄積して尿毒症と呼ばれる状態に陥り生命の危機に瀕します。この身体の中に貯まった余剰な水分や毒素を取り除く治療を透析療法と言います。透析療法には2つの方法があり、ご自身の腹膜(お腹の中の臓器を包む膜)を介して毒素を取り除く腹膜透析と、機械的に血液を体の外に導き出し、ダイアライザと呼ばれる中空糸状の膜を介して毒素を取り除く方法を血液透析と言います。サテライト透析室では血液透析療法が中心となります。この透析療法は週に2〜3

慢性維持透析療法

国内における慢性維持透析患者さんは年々増加の一途をたどっており、2021年末現在の統計調査では349,700人の方が維持透析療法を行っており、新たに40,511人の方が透析を導入されました。うち糖尿病を背景とした患者さんの割合は39.6%となっており、日本透析医学会統計調査委員会(東葛病院においても同様の傾向を示し、現在は275名の維持透析患者さんが東葛病院で治療を受けています。



図1

回、一回3時間から6時間かかる治療となり、患者さんご自身への負担も大きく、生活の質へも直結する事から、地域における透析施設の役割は非常に大きいと考えています。

東葛病院における透析治療の歴史は古く、1992年の法人合同時には8床の透析施設を有し、2006年東葛病院付属診療所が開所したと同時に外来透析センター(60床)及び入院透析室(12床)と、現在の72床体制となりました。

そして2016年の東葛病院移転に合わせて、血液透析・腹膜透析・保存期腎不全外来といった腎疾患治療における対応がワンストップでできる事を目標に腎センターとして現在の東葛病院に72床の透析施設(外来60床・入院12床)及び腹膜透析ブース、外来ユニットを有する施設を作りました。2020年にはそれまでの午前・午後の2クール制では新たな患者さん受入れが困難と判断し、夜間早朝も含めた3クール制を導入致しました。



写真3

しかしながら、将来的な展望を検討する際に東葛地域における人口動態や地域の医療機関等の状況を鑑み、さらなる地域ニーズに合わせるためには、サテライト展開が必須であるとの判断から、今回のサテライト透析室開設を決定し、2023年10月より総床数102床の透析治療を展開する事となりました。

新施設の特徴

新しいサテライト透析室となりますが、施設を作るにあたって腎センター及び付属診療所スタッフが丸ごと良い透析治療を行うための施設作りについて議論してきました。サテライト透析室の特徴として、は広い空間確保が上げられます(写真1)。透析施設基準にも合致できるようにベッド間隔は最低2メートルを確保し、高い天井と柱の無い空間を有効活用しながら、十分な空間を確保する事で近年の感染症対策にも対応しています。

新施設の特徴

そして最新鋭の透析設備(写真2)として清浄化された透析液の供給はもちろんの事、オンライン血液透析ろ過療法を全床で可能なように整備し、全自動装置を導入致しました。これにより作業効率が格段に向上し、安全性の強化や患者さんへのケアに係る時間を現在よりも多く確保する事が可能となりました。



写真2

また全ての装置には透析中の水分バランスを常時監視できる装置が装備されており、急な血圧低下などの合併症を未然に防ぐ工夫がなされています。

数年ぶりに新しい靴を買った▼ソールにオレンジ色が入ったシューズである▼ちょっと派手かな?とも思ったが、数日悩んで結局購入した▼その靴を履いて外出すると、他人の靴の色が気になった。「赤もよかったかな」「やっぱり派手かな」など、今までは何とも思わなかったことが急に気になる▼「あの人よりは派手じゃないな」と、自分の選択を正当化しようとしていることに気がつく。「気に入って買ったんだから、自分がよければいいじゃないか」という自分もいる▼いずれにしても、他人と自分を比べているわけである▼周りと違うとなんとなく落ち着かないというのは分らないでもないが、しかし周りと同じであることが何より大事かというところではないと思う▼「何が」「どう」同じか、違うか、その中身が大事ではないか▼100人中一人の考えだとしても、その中身がちゃんと取り上げられることが健全な気がする▼皆が一斉に右を向いていても、どちらを向くかは自分で決めたいと思う。(松)

聴診器

